

徳島で「公共サービスキャンペーン」ラッピングバスが運行開始(12/1)

— 「公共サービス基本条例」「公契約条例」制定に向け県内外にアピール—

連合徳島、徳島県公務労協、良質な公共サービスの確立を求める徳島県連絡協議会の3団体は、良質な公共サービスの提供と地域経済の活性化を求め「良質な公共サービスキャンペーン」に取り組んでいる。

徳島県内においても「公共サービス基本条例」と「公契約条例」の制定が進むよう、徳島県民や自治体へ情報発信するために、2011年11月に公契約条例の先進地である千葉県野田市の根本崇市長を招いてのシンポジウム、2012年10月には東京都多摩市公契約審議会会長の古川景一弁護士を招いて「徳島県の公契約条例・公共サービス基本条例をめざすフォーラム」などを開催してきた。

2013年度は徳島バスの協力を得て、公共サービスの必要性を広く県民に訴えるため、路線バス、高速バス、2台の車体後方に「公共サービスは私たちの生活です」とデザインを施したラッピングバスを運行する。運行期間は12月1日から1年間。路線バスは県内各地を、高速バスは京阪神を走る。



京阪神を走る高速バス(左)と徳島県内各地を走る路線バス(右)

12月1日、徳島駅前で記念式典・出発式を行い、連合徳島の河村和男会長、公務労協の氏家常雄副議長（自治労中央執行委員長）、花村靖副事務局長、徳島県公務労協の藤岡一雄議長（自治労徳島県本部委員長）や連合徳島組合員など100人が参加した。

冒頭、主催者を代表して河村会長は「私たちは、生まれてから亡くなるまで、朝起きて寝るまで、生活していく上で全てが公共サービスと密接に関わっている。質の高い公共サービスの実現をめざし取り組みを進めていきたい」とあいさつした。



主催者を代表してあいさつする河村連合徳島会長

式典終了後、ラッピングバスの出発式を行い、テープカットを行った。なお、記念式典・出発式前段には公共サービスの必要性を記載した「ポケットティッシュBOXペーパークラフト」も県民に配布した。



出発式でテープカットを行う



ポケットティッシュBOXペーパークラフトを配る氏家副議長



○良質な公共サービスの確立を求める徳島県連絡協議会第9回総会 と学習会を開催（10月28日）

良質な公共サービスの確立を求める徳島県連絡協議会（連合徳島、徳島県公務労協などで構成）第9回総会が10月28日に徳島市・労働福祉会館で開催し、連合徳島構成組織や団体から36人が参加した。

総会では1年間の取り組み報告や運動方針、会計予算を確認・決定した。なお、当面する取り組みとして、2014年1月下旬をめぐり県西部での公契約条例制定を求める学習会の開催、本年12月から1年間ラッピングバスによる情報発信宣伝活動を行っていくこと等を確認した。

また、翌29日には学習会を開催し、連合徳島構成組織や団体から17組合50人が参加した。

冒頭、主催者を代表して連絡協議会の河村議長が「私たち住民の暮らしは公共サービスと切り離すことができない。公共サービスが暮らし全般をカバーしている。それにより私たちは社会に包摂され、育まれ、暮らしを立てることが可能である。しかし今日、医療・介護・福祉・子育て・教育・地域交通・食の安全、安定供給など、公共サービスが劣化し、格差拡大や貧困など深刻な社会問題となっている。本日の学習会では、公共サービスにおける農政について必要性を理解いただき、国民の安心と安全を確保するための公共サービスの再構築をはかることを目的としている」とあいさつした。



第9回総会の様子



講演する花村副事務局長

学習会では公務労協の花村副事務局長を招き、「公共サービスにおける農政について」をテーマに講演し、参加者は理解を深めた。花村副事務局長は、農林水産政策、行政の役割を述べたうえで、日本における食糧自給率の問題や多くの食料は諸外国の輸入に頼っていること、また、日本における耕地面積と耕作放棄地の問題、年齢階層別の基幹的農業従事者数、年齢構成等についても、徳島県における現状も例にあげながら説明を行った。

また、TPPについては、連合におけるスタンスも紹介した。最後に「私たちは、生まれてから亡くなるまで、朝起きて寝るまで、生活していく上で全てが公共サービスと密接に関わっている」と締めくくった。